

## 青年期女子のやせ願望と女性ファッション誌の影響 —ファッションへのこだわりと自己の確立に着目して—

新井 恵

現在、女性ファッション誌を含め、多様なメディアからダイエットの情報が発信されている。なかでも、高校時代に女性ファッション誌を読んでいた友人の多くが、やせ願望を持っていたことから、読者が女性ファッション誌から受ける影響に興味を抱いた。

本研究では、女性ファッション誌の影響力を探る。はじめに、青年期女子・男子に対して、グループインタビューと個別インタビューを行う。さらに、発信者側の目的や意図とのズレを探るため、女性ファッション誌の編集者に聞き取り調査を行う。

ファッションへのこだわりとやせ願望の関係性を探るため、仮説①「ファッションへのこだわりとやせ願望には、相関関係があるのではないか」、仮説②「ファッションへのこだわりが強い人は、女性ファッション誌のダイエット関連の記事あるいは広告から影響を受けやすい」、仮説③「年齢が上がるほどファッションへのこだわりが強くなり、選択的主体的に女性ファッション誌を読む」を立て、検証する。グループインタビューと個別インタビューの分析では、「やせ願望」の類型化を行い、聞き取り調査の結果と合わせ、女性ファッション誌のダイエット関連記事・広告の影響力を探る。

仮説①を検討した結果、ファッションへのこだわりとやせ願望には相関関係があると言えた。仮説②については、こだわりの意味合い（「他者の真似」/「自分の理想」）によって、女性ファッション誌のダイエット関連記事・広告の影響を受けやすいか否かが異なると言えた。「他者の真似」という意味合いの強い人は、ダイエット関連記事あるいは広告の影響を受けやすく、仮説②を支持する結果が得られた。一方、「自分の理想」という意味合いの強い人は、むしろダイエット関連記事あるいは広告の影響を受けにくく、仮説②を支持する結果は得られなかった。

また、「他者の真似」の意味合いの強い人には、女性ファッション誌から自分に必要な情報をうまく受け取ることができない傾向があった。その理由を探ると、自分の身体の特徴を受け入れられず、自分を理解できていないからだとわかった。他方、「自分の理想」の意味合いの強い人には、自分に必要な情報をうまく受け取れる傾向があった。この場合、自分の身体の特徴を受け入れ、自分を理解できているからだとわかった。仮説③については、年齢が上がるほど、ファッションへのこだわりが強くなり、選択的主体的に女性ファッション誌を読むとは言えなかった。結論として、女性ファッション誌から自分に必要な情報を受け取れるか否か、そして、自分の身体の特徴を受け入れるか否かが、自己の確立と相関関係があると言える。女性ファッション誌の『non-no』、『Popteen』の編集者も、「読者が自分で必要な情報を選び、生活に役立ててほしい」という思いを共通して持っていた。総じて、女性ファッション誌の読者には、自己を確立し、自分に必要な情報を選び出す能力が求められていると言える。

(指導教員 後藤嘉宏)